

新 春 トークセッション

「きぼう学園での学びを生かし、次のステージへ！」

令和5年4月に学びの多様化学校（不登校特例校）「白石市立白石南小学校・白石南中学校（通称「白石きぼう学園」）が開校してまもなく3年がたとうとしています。今回は、きぼう学園の卒業生である佐久間輝璃さん（左）、穴戸愛さん（右）のお二人を迎え、母校での思い出とこれからの夢や目標などについて、山田市長と語り合いました。



「白石きぼう学園」



令和5年4月、学びの多様化学校（不登校特例校）「白石市立白石南小学校・白石南中学校（通称「白石きぼう学園」）が小中一貫校として、東北初、全国でも3例目の学校として開校。これまでに15人の卒業生を送り出しています。

きぼう学園は「学校らしくない学校」をコンセプトに掲げ、児童生徒が「落ち着いて過ごせる居場所」となること、「認めてもらうこと」を実感できる体験活動を充実させること、「個別最適な学び」で意欲と自信がもてるようになることの3点を大切に、一人一人の個性に合わせた柔軟な支援を行っています。その取り組みは全国的に高く評価され、開校から現在まで多くの視察を受け入れています。

市長 明けましておめでとうございます。今年は午年です。丙午（ひのうま）と言って、60年に一度巡ってくる午年なんです。午年は馬のように飛躍できる、新しいことを始めるのにはとても良い年なので、ぜひ輝璃さん、愛さんにはそれぞれの夢や目標に向かって、新しいことにチャレンジしてほしいと思っています。今日はお二人の母校である「きぼう学園」で、いろいろお話ししたいと思います。

きぼう学園を選んだ理由

市長 はじめに、「きぼう学園」に入学してみようと思ったきっかけや、選んだ理由を聞かせてください。

穴戸 私が「きぼう学園」に入学しようと思った理由は、開校する前にいろいろな学校の体験入学に行ってみたのですが、ちょっと自分には合わないと思って悩んでいました。そんなときに、「きぼう学園」が開校するという話を聞いて、オープンスクールに参加しました。校舎も私の好きな木のつ

くりで、先生も皆さん優しくだったので、ここなら自分もやっていけそうだと思います。

佐久間 もともと学校に行きづらくて悩んでいたところ、私も3年前にちょうど「きぼう学園」が開校すると聞いて、オープンスクールに参加しました。実際に参加してみて先生たちもみんな優しく、校舎もすてきだなと感じました。また、同じ境遇の子がたくさんいて、話が合いそうだったので、ここに通おうと思いました。

市長 なるほど、先生方の雰囲気がとても優しいのだなということと、「きぼう学園」の校舎も気に入ってもらえたということですね。確かにこの校舎はとても明るいし、木のぬくもりを感じられてあたたかい感じがしますね。周辺も自然豊かで、皆さんが過ごしやすい環境だと思います。

きぼう学園での思い出

市長 「きぼう学園」で過ごした時間で、楽しかったこと、印象に残っていることはありますか。